

2 学校教育計画

(1) 学校のミッション

病弱教育部門の特別支援学校として、児童・生徒の自立と社会参加に向け、医療の管理下におかれている子どもたちの、不安やストレスを軽減させ、安心して学習できる支援と教育環境の整備に取り組む。
また、病弱教育のセンター校の核として、転出後の児童生徒が安心して学習活動に移行できるよう、病院、市町村、在籍校、在籍校の近くの特別支援学校をつなげる支援を行う。そして、ICT機器等の有効活用による環境整備を進め、入院時から移行期の教育保障の一層の充実に取り組む。

(2) 学校教育目標

○医療の管理下におかれている子どもたちの自立と社会参加を目指す教育機会を保障する
○入院中の児童・生徒一人ひとりが安心して学びを継続し、個々の課題に応じた授業を実践する
○ICT機器等の有効活用による環境整備を推進し、多様な授業の実践・研究を推進する
○病弱教育のセンター校として、組織的な支援を推進する

<目指す学校像>

- 病気になるっても一人ひとりのニーズに応じた教育が受けられる学校
- 教員が病弱教育に使命感を持ち、積極的に活躍する学校
- 病弱教育のセンター的機能を組織的に発揮し、関係機関をつなげ、支援する学校

<目指す子ども像>

- 自分を大切にし、人を大事にできる子ども
- 病気や障害を受け止め、理解し、回復への意欲を持つ子ども
- 気持ちを安定させ、希望を持って生活できる子ども
- 自分から学ぶ姿勢がある子ども

(3) 計画策定時点での課題

○年間400件を超える転出入があり、迅速で正確な事務処理を行うため組織的な仕組みや手続きを整理・見直していくことが課題である。
○年間の在籍児童生徒数の変動、多様な授業形態（教室、施設、病棟学習室、ベッドサイド等）の中で教育実践を行っていくため学部の枠を越え学校全体で授業に対応していくことが課題である。
○復学支援・進学に向け、組織的に取り組んでいく必要がある。
○病弱教育のセンター的機能を組織的に発揮していくことが課題である。これまでも個々の相談に対応しているが、地域の小中学校へのコンサルテーションや各小中学校の近くの特別支援学校をつなぐ支援が必要である。

(4) 4年間の目標と主な方策

NO	視点	4年間の目標	目標達成に向けた主な方策
1	教育課程	・自立と社会参加を目指し、児童・生徒の実態を的確に把握し、入院中の学習保障をすると共に、柔軟かつ多様な充実した教育活動を実践する。	・速やかに個別教育計画を作成し、活用する。
	学習指導	・ICT機器等の有効活用による環境整備を推進し、多様な授業の実践・研究を推進する。	・学校全体で、授業をつなぐなど多様な展開が可能になるよう、授業時数の確保と柔軟な授業体制を構築する。
2	児童・生徒指導・支援	・児童・生徒一人ひとりの個性や医療状況を尊重し、ニーズに応じた支援・指導を組織的に行う。	・個々の状況に応じ、組織的に支援・指導し、情報を共有するシステムを構築する。 ・学部長、教育相談コーディネーターが日常的に関わる。 ・関係者との連携による支援シートを作成し、活用する。
3	進路指導・支援	・一人ひとりの将来の生活の充実を目指し、医療状況や復学時期への見直しに応じた進路指導・復学支援等を行う。	・一人ひとりが主体的に関わり、自己選択・自己決定の力を養う学習活動を充実させる。 ・復学や高校への進学に必要な情報を幅広く収集・整理し、本人・保護者に提供する。
4	地域等との協働	・地域の小中学校へのコンサルテーションを実践し、さらに地域の特別支援学校へ支援をつなぐ。 ・病弱教育に関する理解や啓発を進めるため、地域の小中学校や特別支援学校へ発信する。	・地域の学校や特別支援学校と組織的に連携し、同時に各学校へ適切なコンサルテーションができるよう校内体制を整備する。 ・病弱教育に関する研修の機会を提供する。
5	学校管理 学校運営	・教職員の人格的資質、専門性の向上を図る。 ・限られた利用可能施設や、制約が多い環境の整備と最大限の活用を図る。 ・事故、不祥事防止を徹底する。	・ICT活用等の授業改善や、児童・生徒の医療状況や障害特性を踏まえた指導を行うため、全職員が主体的・意欲的に授業研究に取り組むシステムを構築する。 ・組織的継続的な環境整備を実践する。 ・転出入手続き等を正確・迅速に行うシステムを構築する。